

登壇者ご紹介！

広島会場

永田みのり
安田女子大学
国際観光ビジネス学科4年

宮田菜穂
安田女子大学
生活デザイン学科3年

沖本晴香
安田女子大学
現代ビジネス学科3年

下崎正浩
広島県地域政策局総括官
(国際・平和推進)



東京会場

中島恵理
環境省地球環境局総務課
脱炭素化イノベーション
研究調査室 室長



(1) ご自身のキャリアについて、自己紹介も含めて教えてください。

※【 】内の文言はお題に対する回答のキーワード。

沖本

【安田女子大学現代ビジネス学科】

こんにちは、安田女子大学現代ビジネス学科3年生の沖本晴香です。現代ビジネス学科ではビジネスに活かせる学びについて、経営学や経済学、マネジメントを学んでいます。将来的には一般企業に勤めるつもりで社会課題に貢献できる企業に入って、仕事を通して社会課題に貢献したいと思っています。



永田

【安田女子大学国際観光ビジネス学科】

こんにちは、安田女子大学から参りました永田みのりです。国際観光ビジネス学科を専攻しています。学んでいることは基本的に沖本さんが紹介した現代ビジネス学科と似ていて、それにプラスして観光を深く学んでいます。大学2年ではハワイ留学を経験し、今は卒業論文で「サステナブルな観光」を研究しています。

宮田

【安田女子大学家政学部生活デザイン学科】

こんにちは、宮田菜穂です。安田女子大学家政学部生活デザイン学科に所属しています。この学科では衣食住を幅広く学び、その後は自分の好きな専攻を選び、私は建築を学んでいます。私は住宅に興味があってこの学科に入ったのですが、大学で学ぶうちにまちづくりに興味を持つようになりました。



中島

【環境省】

環境省の中島です。私の今の仕事は脱炭素化イノベーション研究調査室で、まさにカーボンニュートラルのためのイノベーションについて研究しています。8月までは環境計画課において、SDGs や地域循環共生圏などの仕事に関わっていました。また、環境省に昨年4月に戻ってきたのですが、それまでは長野県の副知事を務め、長野県でも SDGs に取り組んでいたため、その視点からも今日はお話できればと思っています。よろしくお願ひ致します。



下崎

【広島県地域政策局 総括官（国際・平和推進）】【1/2↑×2 1/3】

みなさん、こんにちは。広島県地域政策局の総括官で国際と平和推進を担当している下崎正浩です、よろしくお願ひします。自己紹介のキーワードを「1/2↑×2 1/3」と書いた理由が、私は生まれて半世紀を超えたことと、その内の半分以上を県庁で仕事しています。また、残りの1/3は今の仕事で平和関係に携わっています。そこで、平和関係では核兵器廃絶のこと、国際関係だと広島に住んでいる外国人の方に色々と情報をお伝えして、よりよい生活をしていただくことや広島県が提携している自治体と国際交流を行っています。



(2) 私たちの世代にどういうイメージを持っていますか？

下崎

【パソコン】

パソコン世代と思っています。先ほど私が生まれて何年という話をしましたが、私が県庁に入った頃は大学生のみなさんはまだ生まれていないですね。当時のことを言うと、職場の課に30~40人の職員がいて、その課に1台だけワープロが置いてありました。それをみんなで順番待ちをして、ワープロで文章を作っていました。私は学生時代にワープロを触ったことはなかったので、当時どのように文章を作っていたか覚えていませんが、それが始まりで10年くらい経って、当時



3~4つある係にそれぞれ7~8人の職員がいて、そこにやっと1台のパソコンが入ってきました。それが県庁の中でも最先端でした。

そのパソコンの順番待ちで残業しているような状態だったので、遂には自分でパソコンを購入して仕事をするような時代になりました。

みなさんのことをパソコン世代と言ったのは、ここ数年で高校生の人材育成をしていて、その高校生がパソコンを使って発表するのを見て、何のソフトを使っているのかわからないくらいすごいプレゼンをしていたので、パソコンを使って自分を自由に表現できる世代という印象を持っています。

中島

【ものではない豊かさ】【社会とのつながり】

私は「ものではない豊かさ」、それは人とのつながりなど、ものではないところに価値観を持つ人が増えているのではと思っています。具体的には、私が大学生の時には、特に男性は車を買うことを大切にしていた、彼女をつくるためには車を持たないといけないというイメージがあって、私は当時から環境に関心があったので、それでよいのかなと正直思っていました。最近では、大学生が車を持つのは珍しくなっていて、車を持つにはお金がかかるし、レンタカーを借りることもできるようになって、電車でもバスでも移動できるので、みなさん現実的に無駄なところにお金を使わず、人と人との交わりや、違うところを重視するようになったのかなと思います。それを私は非常によいことだと思っていて、ものを使い過ぎると大量生産多量消費となってしまうので、若い人からライフスタイルが変わってきていると思っています。



もう一つは「社会とのつながり」。みなさんはSDGsを勉強していて、私たちの時代にはSDGsはなかったのですが、大学生のみなさんが社会のために大学生として何ができるかということを考えている人が多いと思います。沖本さん、永田さん、宮田さんも、まさにそうだと思います。自分の学生としての楽しみだけでなく、社会のことを考える学生が増えているのはSDGsのおかげだと思います。そういったみなさんのパワーを環境省は大事にしたいです。

環境白書を書く仕事を担当した中で、長野県と静岡県の高校生の取組を紹介したところ、地元紙が大きく取り上げてくださり、お礼の手紙から大臣と高校生が意見交換することになりました。若い大学生のみなさんが社会と関わることで社会を変えていく。そういうきっかけになるものだとしてすごく感じています。

宮田

【ヴィンテージ】

バブル景気を経験されている世代だと聞いていますが、私が思っているのは「ヴィンテージ」というイメージがあります。インテリアや服など、お母さんやおばあちゃんが身につけているものが今すごく価値あるものと感じていて、自分の好きなヴィンテージを生んだ時代というイメージがあります。

永田

【伝統×革新】

私は「伝統×革新」と書きました。中島さんや下崎さんのご両親の世代の方々が、伝統や古きよき日本を守ってこられた方なのかなというイメージがあります。それとは逆に私たちが新しいものを生み出す、どんどんチャレンジしていくようなイメージがあるので、ちょうどその間として、新しいことを引っ張りつつも伝統を守られている、中島さんや下崎さんはそのような世代の方なのかなと思っています。

沖本

【浪費】

私はキーワードに「浪費」と書いて、マイナスなイメージで申し訳ないです。私の両親もお二人と同じでバブル世代と言われていて、両親の話聞いていても、大学時代は大量生産大量消費で、中島さんが



おっしゃっていた、「ものではない豊かさ」とは真逆というか、ものの豊かさの時代かと思っています。私の両親やバブル世代の方を見ていて、環境問題やSDGsにあまり関心がない人が多いです。そこでお二人はSDGsや環境問題についてお仕事されていて、転換期はどこだったのかなというのが気になります。中島さんは大学生のときに環境に興味があったと言っていました。いつ持続可能性の必要性を感じたのか気になるところです。

中島

みなさんおっしゃった通り、「浪費」や「伝統と革新の間」、「ヴィンテージ」のものを引き継いでいた時代だったかと思います。環境に関しては、ちょうど温暖化の問題が言われ始め、オゾン層の破壊など、地球環境問題が深刻になり始めていた頃でした。大学でもそのような授業があって、そこで初めて地球環境問題が深刻だということに気が付いて、自分は浪費のライフスタイルをしていたので、自分のライフスタイルを変えることを考えていたときに、大学に環境のサークルがあったので3年生からそのサークルに入りました。

みなさんはエコリーグをご存じですか？環境活動サークルの大学間ネットワークが立ち上がった頃で、私が所属していたサークルがエコリーグの立ち上げに関わったので、全国の元気な大学生と関わることになり、それがきっかけで環境省に入りました。



(3) 本プロジェクトの活動内容や学び、with コロナ社会に向けた自身の考えについて話してください。

宮田

【横のつながり】

私は広島出身で、平和の大切さを小学生の頃から思っています。このプロジェクトで10月に実施された意見交換会では、その広島の平和というテーマを基盤に置いて、みんなで意見交換しました。広島だから伝えられることがたくさんあると思っていて、平和学習を学んで自発的に平和を発信していくことが、本当に大切だということを感じました。あと、広島で土砂災害があったのですが、災害や震災など、私が暮らしている中であった困難を通して、横のつながりが大切だということを強く感じています。日本では縦の繋がりは文化的にあると思いますが、横の人との助け合いや声掛けが、今もこれからも大切になってきていると感じました。



永田

【テレビ局、教育→広がる】

私は地元のテレビ局と教育によって学びを伝える団体取材しました。そこで、どちらも共通していたのが、コロナだからこそ逆に外に発信しようという活動でした。今は Zoom などオンラインで簡単に繋がることのできるの、それを活かしていたり、コロナがなかったら興味がなかったことも、コロナがあるからこそ学んでみようと考えていたり、そういった場所や人を見て、SDGs があるからこそ、コロナだからこそ、そういった思いがより広がったのかなと思いました。

沖本

【古き良き日本の文化】

私は「古き良き日本の文化」をキーワードにしました。私が取材したのが、広島で 100 年続く和菓子店でした。コロナ禍でもお家で作れる和菓子のキットを販売するなど、色々と新しいことをされている和菓子店です。

日本の昔の文化は人同士が助け合って生きていて、江戸時代は循環型社会だったということや、今ある資源を使って、持続可能な社会を実現できていたということを知ることがあり、それってまさに私たちが目指すべき姿なのではないかと思いました。

私が取材した和菓子店は、日本の古き良き和菓子の文化を今の子どもたちにも広めたい、広島で必要とされる企業になりたいとお話をされていました。人との繋がりや、日本の古き良き文化を残すことが、最終的には持続可能な社会をつくる時に重要になるのではないかと思います。



下崎

最初の説明でこの事業は3年前に始めたというお話がありましたが、その立ち上がりの時に、私たちは広島という平和のまちにおいて、SDGsを読み解くとどうなるのか、広島こそSDGsをやるべきだと考え、そしてどうやったら広がるのかを議論していく中で、このセレクトブック事業が生まれました。企業がやっていることが、こっちから見ると利益を追求しているが、こっちから見ると社会課題を解決している、ということを感じていただくためにこの事業を始めたのが大きな目的です。

それともう一つは、大学生に企業と話してもらったりSDGsを勉強する中で、広島や日本はどうか、海外はどうかとか、色々な学びを通じて人材育成をするという、2つの大きな目的で始めた事業なので、みなさんの話を聞いて嬉しく感じました。

宮田さんが平和のことを話してくださり、まさしくこれは私の部署のことです。よく言われるのが、海外に行ったとき、例えばアメリカに行ったときに、日本で知っている都市を聞くと、もちろん一番は東京ですがその次は広島ということ、海外をよく知る人からよく聞きます。そのようなときに、広島のことってどうなのと聞かれて、そこで初めて自分の勉強不足を感じることもあるらしいので、広島で学んだことを持って卒業して企業などで活躍されると思いますが、そういう気持ちをしっかり持ってやってほしいのと、そういうことに気づかせていただいたのはありがたいです。



それと、永田さんが、コロナだからこそ伝えることが広がったとおっしゃっていて、これって我々が一番みなさんに期待することです。自らが学んで、自らが考えて、それを広く伝えることがみなさんの役割だとよく話すのですが、伝えることは我々の世代よりもみなさんの方が上手なと、色々なツールを使えると思うので、ぜひその伝えるという役割を担っていただきたいです。

また、我々の世代ですらコロナ禍でテレワークなど週に1~2回やっていますが、これまでは何で

テレワークをしないといけないのかと思っていましたが、実際やってみると非常に便利で、通勤のストレスがないのはこんなに楽なのかなと感じたのですが、それにプラスして、東京にいる人と簡単に言いたいことを伝えることができる、時差はあるけど海外の人ともできるので、そういったことも利用して伝えていってほしいです。

最後の、古き良き文化を伝えることについて、文化は人が持つアイデンティティだと思っています。自分にとってのアイデンティティは日本人なのか、広島の人間なのか、自分は何のアイデンティティを持っているのかというのを、しっかり意識してこれから頑張りたいと思います。

中島

私から先に質問させていただいてからコメントできるとありがたいです。みなさんが企業を訪問された中で、どうやって企業を選んだのか、取材に行ってみてイメージが変わったところがあれば教えてください。

沖本

私が和菓子店を選んだのは、100年続いている和菓子店は何で続いているのかな、そこに持続可能なヒントがあるのかと思いました。それと、この企業がコロナ禍でどんな取組をしているかという情報を知った上で選んだのですが、その中で色んな新たな取組にチャレンジされていて、どういう想いでされているのかということを取材したくて選びました。

イメージが変わったところは、100年続く和菓子店ということで、伝統を守るお堅いイメージを持っていたのですが、今の社長の息子さんがインスタグラムを発信されるなど、新しいアイデアを考えているみたいで、それを社長もどんどん取り入れようとやっているのと、また、人を大切にしている企業で、人が財産になって、助け合いながら変化していくことが100年続く理由かなと感じて、伝統を守るだけでなく時代に合わせて変わるというイメージに変わりました。



永田

私がテレビ局を選んだ理由は、単純になかなか行く機会がないので話を聞いてみたくて選びました。また教育については、元高校教師の方にお話を聞き、SDGsは大学生や高校生など、若い方がどんどん発信していくべきだと思っていたので、実際にどのような活動をしているのか聞いてみたくて選びました。イメージが変わったことは、特にテレビ局について、私のイメージではテレビ局が発信する情報を経て



世の中の流行がもたらされ、世の中をリードするのはテレビ局の情報に基づいていたのですが、実はそういう部分はあるものの全てではなくて、テレビ局の方の想いとしては、世の中に合わせた情報を出すことに気をつけられていて、特にコロナ禍では、世の中で今一番何が必要なのか、世の中にそぐわない情報は出さないなど、よい意味ですごい「空気を読む」ことに気をつけられていたのが、イメージが変わったところです。

宮田

私は世羅町の道の駅を運営する観光協会を取材しました。なぜ私が道の駅を選んだのかは、元々まちづくりに興味があったのと、世羅町を盛り上げるために道の駅が色々と事業展開されていることを以前から知っていたので、そういう面からお話を聞けたらと思い取材しました。

取材前は、観光協会や観光業はコロナによってすごい大きなダメージを受けていると、どのSNSやテレビでもずっと言われていたし、自分自身も感じる場所があったので、自分たちの向き合い方としては、大変な思いをされている中でどのような取組をされていますか、という取材をしようと思って行きました。

しかしこちらの道の駅では、コロナをきっかけにオンラインショップを始めたことで、今までは世羅町

に来た人にしか商品を提供することができていなかったけど、オンラインならば世界中のどこにでも自分たちの商品を届けることができ、更には世羅町に来てもらう機会をつくることができた、と言われていました。

最初は、コロナだからマイナスなことが多いイメージを持って取材に向かいましたが、これから繋がる来訪者の獲得など、マイナスからでもプラスのことをたくさんつくっていけると感じました。

中島

ありがとうございます。最初におっしゃったキーワードと今伺ったキーワードに、SDGsのヒントがたくさんあるなと思いました。

沖本さんがおっしゃっていた100年続いているヒント、時代に合わせて変化し続けているからこそ、そこでSDGsに取り組んでいるからこそ続いているのだと、まさしくその通りだと思います。

永田さんがおっしゃっていたテレビ局の情報は、世の中に合わせた情報を出している、空気を読んでいる、それはテレビ局としてのSDGsの姿だと思います。

宮田さんがおっしゃった、マイナスをチャンスに変えていけるような企業がSDGsの実現にも重要で、今後も発展していく可能性があると思います。ぜひ今おっしゃったキーワードをセレクトブックにも入れていただきたいです。

それと、沖本さんも永田さんも宮田さんも、人とのつながりを強調されていたと思います。

SDGsのキーワードはつながりだと思っていて、もし可能であればヒアリングした企業同士をつなげることを次のステップとして、みなさんの力でやっていけるとよいと思います。

下崎さんがおっしゃっていた、大学生のみなさんから見て、企業が気付いていなかったSDGsのヒントを発信して、企業にとってSDGsを身近にしていくということと、企業間でここ



こが繋がると面白いよねということができるとよいと思います。例えば、和菓子店や道の駅をテレビ局で発信してもらおうとか、和菓子屋店が使っている言葉を教育団体に発信してもらおうなど、企業間連携や大学生とのつながりによって、広島SDGsが更に発展する可能性があると思います。それを、我々の様な大人が提案するのではなくて、大学生のみなさんが提案することによって、社会が動くことがあるので、ぜひそのような活動に発展していくとよいなと思いました。

これは下崎さんも同じ気持ちだと思うのですが、私が長野県にいたときの経験だと、若い大学生のみなさんが就職で大都会に行ってしまう。広島に残る人もいるかもしれませんが、東京や大阪に行く人が多い中で、地域の良さを知って、地域で活躍してくれる人が増えてくるとよいと思うので、今回の経験を基に広島の魅力を発信してもらい、みなさんも何かしらの形で広島につながりを持ってもらえるとよいと思います。

(4) その他、お互いに聞いてみたいことやSDGsの重要課題について、自身に取り組めることやお互いに期待したいことをお答えください。

中島

2つほどお話ししたいです。1つ目は、私が関わっている仕事で、菅総理がカーボンニュートラルについて、2050年までに温室効果ガスをゼロにするということを宣言されてから、ものすごく忙しくなりました。今、環境省は火の車です。ありがたいことに、これまでは2050年までに80%削減するということから、100%削減すると言ったとたんに、環境省も他の省庁も企業も大きく変わりました。ゼロカーボンに向けて、2020年12月までに国はイノベーションの実行計画を立てていて、環境省でも方向性を出していこうと自治体との話し合いの場をつくってことをやっています。実は、カーボンニュートラルを進めたのは、国が勝手に決めたわけではなくて、地域の自治体がゼロカーボンシティ宣言を行ったことが大きく影響しています。現在、人口で8,206万人規模の自治体がゼロカーボンシティ宣言を行っていて、ぜひ広島県も宣言していただくとありがたいです。



そういった自治体の取組を支援していくことを環境省は掲げていこうと考えています。また、私たち一人ひとりのライフスタイルを変えていくために、太陽光や再生可能エネルギー、EVを進めていくために、ZEH（ゼッチ：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の取組を環境省一丸となってやろうとしています。

もう1つは、これは私が昨年関わった仕事で、みなさんと同じ様なことをやっていました。ローカルSDGsのビジネスの事例を調べました。（「令和元年度持続可能なローカルSDGsビジネスの先進的実例と成功のポイント」報告書を紹介。）

SDGsを実現するためには、やはり事業活動としてSDGsを担っていただくことが重要だということで、SDGsに取り組む全国の企業を調べてその成功の秘訣をまとめました。そして、今年やっていることは、調べた企業・地域をつなげていくようなワークショップを実施して、やっている取組を多くの企業に知っていただき、企業と企業、企業と自治体がつながる場が広がっていくような取組を行っています。実は皆さんがやっていることと非常に似ていることをやっています。環境ビジネス FRONT RUNNER というホームページにも掲載されているので、ぜひ参考にしていただければと思います。また、逆にみなさんが取り組んでいるセレクトブックは前任者にも共有して、お互い発信し合えるといいなと思います。こんな形で地域のSDGsの取組を進めていきたいと思っていますので、みなさんと引き続き一緒にできるとありがたいです。

永田

カーボンニュートラルについて質問があります。現在、卒業論文で代用燃料を調べていて、日本は他の国と比べて遅れていると感じる。再生可能エネルギーについても日本は遅れているイメージがあり、これから技術面がどうなっていくのか興味があります。



中島

日本は様々な取組を行っていて、バイオマスの部分は

ヨーロッパに遅れている面もありますが、例えば環境省では洋上風力の技術開発を進めています。また、水素も色々な技術開発が進められていて、環境省の場合は、太陽光、風力、廃棄物から水素をつかって、その水素をエネルギーとして使っていくような技術開発を行っています。

私に関わっているイノベーションでは、どの分野が日本としては世界に勝っているかという話をしています。私としては、再生可能エネルギーは組み合わせが大切だと思っていて、例えばこれから広がっていくといいなと思うのは、住宅に太陽光発電機を設置して、ZEHになれば住宅で使い切る以上の太陽光発電を行うことができるので、それをEVに蓄電池として貯めていく。公共交通機関で使われるようなバスもEVとして脱炭素化をしていく。再生可能エネルギーの問題としては、太陽光であれば晴れている間にしか発電できないということで自給調整が難しい。それをEVに蓄電池として貯めることができれば、自給バランスをとることができるようになる。そういった組み合わせの技術は、日本で様々な技術実証がされているので、そういった分野では日本はビジネスチャンスがあると思います。

一方で、そういったものは技術だけでは難しく、みなさんの選択が重要で、太陽光もEVもZEHも、みなさんに買ってもらうことや選んでもらうことが必要です。先ほど、ものでない豊かさの話をしました。今後EVなどはカーシェアリングして、みなさんが車1台を持つのでなくて地域で共有する。そして、EVを普及していくために稼働率を上げる必要もあり、地域で共有してみなさんで使っていくような仕組みがあると、みなさんが車を持つのでなくて使うことで豊かな生活を送れるという価値観の変換が生まれると思います。

そのように、技術的なチャンスは日本にもあると思いますし、ライフスタイルを変えていくことが必要なので、大学生のみなさんが積極的にカーボンニュートラルのものを選んで、それを豊かに使うことや発信することが、社会を大きく変えるきっかけになると思います。

沖本

2つ伺いたいです。1つ目は、SDGsに取り組んでいる企業の成功の秘訣を調べていたとおっしゃっていた件、私は今ちょうど就職活動中で、広島の中でSDGsを事業に組み込むなど、ちゃんとやろうとしている企業を探しているのですが、なかなか見つからなくて、SDGsをパフォーマンス的にやっている



企業もあるのだろうと感じます。そこで、本質をどう見極めたらよいかすごく難しく、見極め方を聞いてみたいです。

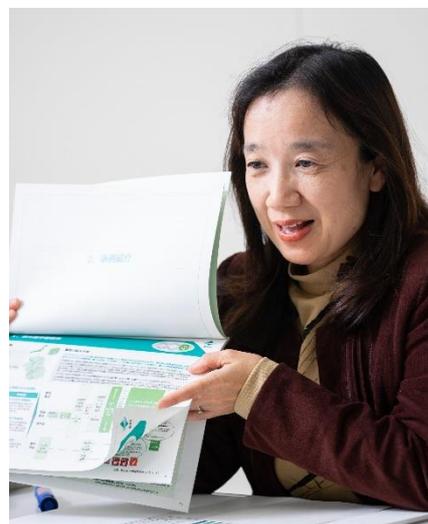
もう1つは、温暖化問題に世界中で取り組まれていると思うのですが、CO₂の搬入出に対して180度違う意見を言う人がいます。温暖化に限らず、プラスチックなども色々な側面から見るができると思います。そこで、どの情報を信じて、どう判断して動いていけばいいのか、情報があまり過ぎて難しいので、何かアドバイスがあれば伺いたいです。

中島

温暖化に関して言うと、私はIPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）も担当していて、COP（気候変動枠組み条約締約国会議）やパリ協定などの交渉に科学的バックグラウンドを与えている、そういった取組に関わっています。IPCCでは世界各国の研究者が集まって、温暖化のどのような影響が出てい

るか、具体的にどんな対策をすればよいのか、ずっと議論しています。今は第6次報告書を作成していて、研究が進められています。過去からの報告書を見ていくと、今起きている気候変動や気象災害が、地球温暖化によるもの、人為的な排出による温室効果ガスによるものだという確実性が高まっています。そういったことを根拠とする論文の研究を積み重ねていて、それをふまえて言うと今起きている気象状況は全て温暖化によるものではないこともありますが、地球温暖化が与える影響がかなり高いことが確実にわかってきています。その部分は科学的根拠があると思ってもらってよいと思います。

それと、SDGsの話では、企業が元々取り組んでいるものをSDGsに当てはめることは、どこでもやっていて、それだとSDGsをしっかりとやっているとは言えないかもしれません。長野県でSDGsの認証の制度を作って、そこでは環境・経済・社会に関してそれぞれ何をやっているか、リストでチェックしていくことと、自主的に取り組んでいることを宣言してもらいました。環境に関して言うと、自分たちが作っているものや、作る過程でどれくらい環境負荷があるのか、省エネ商品を作っているのか。社会の観点では、例えばみなさんが仕事をして結婚したとしても、子どもを生み育てながら仕事をフルで続けられるような制度が整っているか、管理職にどれくらい女性がいるか、男性でも育児休暇をとれるのかなど、働きやすい職場としてどんな工夫をしているのかぜひ聞いてみてください。長野県ではイクボス・暖かボス宣言を企業にしてもらって、企業の上司は部下が働きやすいように職場をつくること、それはぜひみなさんから聞いてもらおうと、企業に対する意識付けにもなると思います。



それと、経済は色んな視点があると思いますが、ポイントは短期的な視点だけでなく長期的な視点も含めて、その企業が今後の事業展開を考えているか、SDGsの視点からすると長期的な視点から考えて、その企業の戦略をつくっていく。2050年に向けてカーボンニュートラルにどう対応していくか、今回のコロナをふまえてどういう風に事業を変えていこうとしているか、それが2~3年の短期的なものではなくて、5~10年のスパンで考えているのか、そういうことをどんどん投げかけてください。

もう一つは、つながるという話をしましたが、今後は企業間連携や企業と地域がつながり、1社だけでなく複数の企業がつながって事業を拡大していく、共創する関係が、SDGsビジネスのポイントとしてこの事例集には載っているのです、そのような視点も参考にいただきながら、これから就職活動でどんどん聞いてください。みなさんが聞いていただくことが、下崎さんがおっしゃったような、企業のSDGsに関する意識を高めることになると思いますし、かつみなさんの働きたい企業も見つかると思います。



(5) あなたが考える SDGs のゴールと、それを達成するためのアクションをお答えください。

下崎

【※図を提示：Goal1～15 をパートナーシップ (Goal17) で実現し平和な社会 (Goal16) をつくる】
これは以前に作ったもので、我々の視点から言うと、17 の目標の内、Goal15 までを Goal17 のパートナーシップで実現し、それが結果的に Goal16 の平和な社会をつくっていくことにつながっていく、という図です。SDGs を実現することが、我々が目的としている平和な社会につながるという視点でやっています。SDGs の目標はすべからく広島県の全ての事業に関わることで、環境や教育、子育て、まちづくりなど、全てが県全体に関わってきます。そして全体を一つずつ見ていくと、我々の部署ではなくて、県全体を統括する部署が全体を把握してやっていくことになる。一方で、広島県では、2 年前に SDGs 未来都市に選ばれていて、それを我々の部署でやっています。それはなぜかと言うと、広島であれば平和という視点で SDGs を見て目標を達成するという考え方でやっているからです。Goal16 の視点を大事にして SDGs に取り組み、平和な社会を実現したいと思います。



沖本

【つながりから広める】

そもそも、SDGs はゴールズなので、ゴールだと終わってしまうけど、ゴールというよりも通過点なのかなと思っていて、持続可能社会が当たり前になっているのが、私がイメージする未来です。そうなるためには、つながりから広めるということで、例えば今日出てきた話で、テレビは人々が求めているものを発信するとか、企業は人々のニーズから商品を開発したりサービスを提供したりする。なので、人々が何を求めるかによって社会は大きく変わるのではないかと感じています。特に日本は、SDGs の意識がまだそんなに高くなくて、周りを見てもそういうところに意識を向けている人は少ない。まずは身近なところから発信をして、持続可能な生活様式が世界の人々に完全に浸透していることが、今後も社会が持続可能で続いていくために必要なことだと思います。私は大学生の立場で、広めるということを今後やっていきたいと思っています。



永田

【社会人として横の広がり ライフスタイル広める→Goal12, 13, 16】

私が卒論でもやっているように、環境問題について調べているのですが、その中でつながりがすごく大事だと思っています。世界全体で協力しないと達成できないことだと思っているので、広島県で言えば Goal16 の平和、平和を通して世界全体とつながることが、私にできることだと思う。それと、つくる責

任つかう責任の Goal12 はすぐに実行できることだと思ったのと、個人的には今日のお話を伺って、ライフスタイルを広める、促すことは個人レベルでできることだと思いました。環境問題や SDGs は、興味を持たないものやつまらないものだと実行できないので、若い世代として楽しく SDGs を広められたらいいなと思っています。

宮田

【プラス思考でプラス行動を!!】

2030 年までの目標で達成できるかと考えたときに、目で見えるもので判断するとそれは難しいけど、心づもりや意識であれば誰でもできることだと思います。私がこのプロジェクトに参加したのも、SDGs を知ろうと思って参加したのですが、プロジェクトを進めるにしたがって知るだけではだめだなと思って、周りの友達や学生にも SDGs の話をするけど、正直、SDGs って何？みたいな友達が多くて、SDGs



は一人残さずというフレーズがあるけど、SDGs を知らないこと自体が誰かを取り残しているのではないかという思いがずっとあって、そういう人たちを SDGs について考える輪の中に引き込む、そういう役割が自分にできたらいいなと思ったので、これからも自分の身近である家族や友達に向けて、こういうことも SDGs に繋がるよとか、こういうのがあるよということ発信して、一緒に考えていけたらいいなと、今日の対談の中で深く感じることができました。

中島

【皆（人と自然）も幸せに】【できることから】

みなさん平和のことをおっしゃっていて、やはり広島県では平和のことが重要なのだと感慨深く思いました。私も同じことかと思っていますが、私たちも、将来の子どもたちも、おじいちゃんやおばあちゃんも、途上国にいる人も、自然環境も、みんなが幸せになれるということかと思っています。幸せになれるということは、やはり平和ということで、みなさんが笑顔で暮らせる世界を実現すること。それは、沖本さんもおっしゃっていましたが、それは通過点なのかなと、2030 年にカーボンニュートラルはなかなか難しく、社会は少しずつ変わっていくので通過点なのかと思っています。

それと、私自身もそれを達成するためには、それぞれのできるところから、それが小さなことでもそれが大きなことになると思っていて、永田さんからライフスタイルのこと、宮田さんからプラス思考と話がありましたが、できるところからやると大きくなると思います。

私が大学時代のときには、環境のことを勉強して、まずはライフスタイルからということで、料理も好きだったので、おからがゴミになっているということを知って、おからクッキーを作るなど、自分が甘いものが好きだからですが、自分で工夫することを女性ならではの視点で楽しくやっていました。



そして、自分の身近なところからやってきたことが、小さなことでも結果として仕事にも繋がっています。私は今、都会と田舎で2地域居住しています。週末は長野県で、夫は有機農業をされていて、大学を卒業して環境省で働いて、自分のできる範囲でエコなことをライフスタイルでやって、でもそれは都会では無理があり、自分の生ごみをリサイクルして堆肥にしたいけど、堆肥にしても使うところもなく、田舎暮らししたいなと思っていたら、たまたま結婚した相手が農家だったので、有機農業しながら家も自分で建てて、10~20年かけて自分のライフスタイルでできることからやってきたことが、仕事でも活かされています。自分で実践していることを伝えると説得力がありますし、政策面の課題も見えてくるので、自分の小さなことからやっていくことが、大きく社会を変えることに繋がっていると思います。そして、今日参加されている大学生のみなさんとつながって、今後つながり続けて活動すると更によいなと思います。環境分野が素晴らしいと思うのが、10年前に会った人とまた会うことになったりとか、長野県で、滋賀県で昔会った人とつながったり、長野県でも東京で会った人とつながったりとか、特に大学時代に知り合った人は今でも時々バツバツ会って一緒に何かできることもあるので、今回の活動でつながったみなさんとはずっと連絡を続けていただいて、今は SNS もあるので、そういったところからつながってもらえると、2030年の、SDGsの実現や2050年のカーボンニュートラルの実現のために大きな一歩で乗り切れると思います。

以上



オブザーバーは別室から見守りました！

最後に記念撮影！

皆さまご協力ありがとうございました！

